



あらぐさ

学校通信 Vol. 38 2020年11月

発行責任者 共立高等看護学院 小泉京子

甲府市飯田3-1-35 TEL055-228-7325

42期生 戴帽式



第42期生 入学式 祝辞 学院長 内藤恵一

第42期生の皆さん、戴帽式おめでとうございます。

今年は、新型コロナウイルス・COVID19が世界中に蔓延する中で、
きちんとした入学式も挙行してあげられなかった皆さんには、入学式の方も含めて、
『心より、おめでとう！』とお伝えしたい

42期生の皆さんが、看護の道を目指して入学してから、はや、半年余りが過ぎました。通常の対面授業や、
慣れないリモートの授業でも多くのことを学び、病院実習も経験し、学校生活にも慣れ、
ようやく看護学生らしくなってきました。自分が目指した看護への思いは、揺るぎないものになっていますか？

看護学・医学・医療の授業にも触れ、充実した日々を送る一方で、残念ながら、中だるみが出たり、
人によっては、精神的に不安定になるのも、この時期です。特に、今年は、新型コロナウイルスの影響で、
誰であっても、経済的にも、精神的にも、不安定になりやすくなっています。

そのような時期に、今日、この式を迎えました。クラスの仲間をいっそう深く理解し、
看護師になるという決意を固め合う大切な行事です。

本学院は、今日の日を迎えるまでの過程を大切にしています。

長い時間と大きなエネルギーを使い、実行委員会やクラスで話し合い、
自分達で創り上げる式に大きな意義があると考えています。

2年生・3年生も、先輩として、皆さんを見守り、貴重な助言をしてくれています。

そのような式ですから、参加者に感動を与え、皆さんにとっても得がたい思い出となることでしょう。

さて、今年は、皆さんご存知のように、新型コロナウイルスが年明けから世界中で大流行し、

今も猛威をふるい続け、現在(11月14日時点)は、第三波の流行がきていることは、明らかです。

ここ山梨県でも、患者数が急増しています。我々人類は、この新型ウイルスを制御できるようにならなければ、
以前のような社会活動や経済活動に戻ることは、できません。

今年の春、世界中でこのウイルスが大流行した時に、イタリアやアメリカのニューヨークで、医療崩壊が起こり、まだ卒業前の医学生が、臨床現場に駆り出されたと聞いた時には、俄かには、信じられませんでした。幸いな事に、我が国、特にここ山梨では、まだ医療崩壊するほどまでの流行は、おこっていませんが、知識や経験も十分でない、看護学生を卒業前に臨床現場に送り込まざるを得ないような事態が、起こっても不思議ではない時代です。

皆さん、今日、その胸に花をつけてもらう覚悟は、できていますか？

これまで、あなたがたの先輩達が頭上に載せられたのがただの帽子ではなかったように、今日、あなたたちの胸に飾られるのは、ただの花飾りでは、ありません。

あなたたちが、特別な使命を帯びた存在、

-----病に苦しみ、救いを求める、か弱き人々にとって、かけがえのない存在・強き存在-----

となることを心に誓った、そのことを顕す象徴なのです。

あなたたちが、これから灯すのは、ただの蠟燭の灯りではありません。

150年以上前から、連綿と受け継がれてきた、傷ついた者たちにとっての希望の光であり、看護を目指すことを誓ったものたちの魂そのものなのです。

私は、今日、この場にいる全員が、将来、看護師となり、様々な医療の現場で活躍して欲しいと、心から願っています。

当学院は、看護師国家試験の合格率が10年連続で100%を達成していますが、入学した学生が看護師資格を取得できる率も非常に高いと自負しています。

先週、海の向こうの大国で行われた選挙で、アメリカ初の女性副大統領となるであろうカマラ・ハリスさんは、「自分が副大統領に選ばれた、その光景をみて、多くの少女達が、『アメリカは、可能性にあふれた国だ。』とみてくれると謳い上げました。わが校も、看護師を目指す学生にとって(女子学生であっても、男子学生であっても)、可能性にあふれた学校と胸を張れるような看護学校にしたいものです。

戴帽式でのあなたたちの誓いは、いつまでも

心の中に生き続けてくれると信じていますが、看護の道は、まだこれからです。

皆さんは、まだまだ若く、行く手には、学校生活においても、プライベートにおいても、特に、このコロナ禍の時代には、多くの難関、試練が待ち構えています。

是非、今日のこの感慨を忘れずに、乗り越えて下さい。

かつて、「クリミアの天使」と讃えられたフローレンス・ナイチンゲールは、「天使とは、美しい花をまき散らすのではなく、苦悩する者のために戦うものだ！」と述べています。

《これから、看護の道を歩む者として、多くの難関・試練に備え、自分のため、患者のために、襟を正し、背筋を伸ばして、学びなさい！そして、愛する者、苦悩する者のために戦いなさい！》

我々、教職員一同も、皆さんと共に、悩み、精一杯 支えながら歩いていく覚悟です。

ここに集いし42期生全員が、クリミアの天使と讃えられた一人の看護師の魂を継承し、未来へと伝えてくれる事を祈願して、お祝いの挨拶と致します。

おめでとう！

各学年担任より

42期生 鈴木

11月18日(土)に42期生の戴帽式が行われました。

上級生と保護者はオンラインでの参加という新しいスタイルで、時間も短縮し、

新型コロナウイルスの感染対策を行いながらの開催となりました。

コロナ禍で新しい価値観が生まれる中、42期生は制限のある生活の中で
様々な工夫をして戴帽式の取り組みをしました。

入学式も行えず、戴帽式こそはみんなで取り組み、

実行委員を中心にクラス全員で取り組み

「相手の意見・思いを理解すること」「自分の思いを他者へ伝えること」を大切に

42期生らしい式を作り上げたい、という強い気持ちで仲間と意見を交わし、検討を重ねました。

多くの意見をまとめる苦労、大勢の前で意見をのべる勇氣、違う意見を否定せず受け止める努力など

様々な経験をしながら、自分の思いを伝える勇氣や相手の意見を聞き入れる努力する中で

自分やクラスメイトの新たな一面を見つけ、クラスの団結力も高まり、

この先もみんなで頑張っていきたいという思いを強くしました。

取り組みの中では、1人1人がクラスの一員として目標をもって行動し協力することが出来ました。

今の自分が頑張れているのはクラスの仲間や家族の支えがあったからであると、

みんなで考えた誓いの言葉を代表者が伝え、

キャンドルの明かりとともに看護師になる決意を新たにしました。

唱歌はせず、参加者にクラス紹介の動画と

「結」の曲と歌詞に込めた願いが伝わる動画を作成することが出来ました。

戴帽式当日の42期生は全員が凛々しく、看護学生としての決意を感じることができ、感動的でした。

戴帽式は 長い看護の道の通過点です。

日々取り組んでいる1つ1つの努力に無駄なことはない信じて、

価値観の違いで他者を遠ざけるのではなく、それぞれの個性を認め合い、

個性豊かな1人1人がこれからもお互いを認め、

個人クラスとして成長していくことを期待しています。



41 期生 岩波

「何事も前向きに頑張る 2 年生！」

41 期生は 2 年生に進級し、8 ヶ月が経過しました。

本来であれば、学院祭や球技大会などの学校行事を 2 年生が中心になって運営し、クラスメイトの新しい一面を発見したり、クラスの中で自分の役割を見つけたりしながらクラスの団結が強まる時期ですが、今年度は新型コロナウイルスの影響で各種行事は全て中止になってしまい、活躍の場がなくなっていました。また、始業の延期やオンライン授業の導入、学内の過ごし方の変化などがあり、その中でも 3 学年で一番オンライン授業が多いという悪条件の中、モチベーションを維持し続けて学習することは大変でした。

しかし、41 期生はそのような状況にも素早く適応し、それぞれ目指す看護師像に向かって一人ひとり努力を惜しまず頑張っています。学校行事でクラスの団結を深めることはできませんでしたが、コロナ禍という苦境の中、お互いを思いやりながら学校生活を送っています。

9 月までは外科や母性、小児、地域など各論のより実践に近い授業や、前期終講試験、老年 I 実習、小児 I 実習がありました。

小児 I 実習は、乳幼児と触れ合えず、1 週間学内で行いました。老年 I 実習では、例年であれば 3 週間臨床で学ぶところを学内 2 週間、臨床 3 日になり、直接患者さんから学ぶことが短くなってしまいました。

しかし、短期間ではありましたが、実際に患者さんを前にすると、今までの学習成果を実感し、必要な看護を見出すことに繋がりました。

「患者さんにもっと関わりたい」「こんな看護がしたい」などと口々に言っていたことが印象に残っています。

現在 41 期生は 12 月の下旬まで 8 週間にわたって外科や内科、母性、小児の実習にそれぞれ出ています。

2 年生の学びの半分は実習からと言っていいほどです。その実習では、患者さんはもちろんですが、患者家族や臨床のスタッフ、クラスメイトなど様々な人と人との関わりの中で看護について考え、学び、深め、成長していきます。41 期生が看護学生として一回り大きくなって帰ってくることを楽しみにしています。



40 期生 酒井

ついに最終学年、3年生となりました

入学時初々しかった40期生が看護学生としてしっかり成長していることを、
実習や学習に向かう姿勢を見守る中でひしひしと感じています。

入学からこれまで、実習や行事、さまざまな経験を通してたくましく育った40期生。
今年度は新型コロナウイルスの影響で生活スタイルや学習環境が大きく変化し、
何をするにも困難を伴うことが多くありましたが、
その苦境に負けず、何事もコツコツ頑張る姿がとても立派でした。

わたしは40期生とお付き合いをはじめて3年目になりますが、
何事もまじめに一生懸命取り組む皆さんを、いつも素晴らしいと誇りに思っています。
実習の集大成、総合実習でも3年生らしく看護援助を展開し、
それぞれの担当患者さんに良い変化をもたらすことができていました。
卒業研究発表会でまとめたレポートもわかりやすく、行ってきた内容がよく伝わるものでした。
そのような素敵な物を作り上げられたのは40期生の努力の賜物だと感じています。

わたしはこれから国家試験に向かう40期生に伝えたいことがあります。

それは「これまでの自分を認め、褒めること」です。

もちろん国家試験当日まで学習は続くので、これからも努力の継続は大切です。
しかし一旦、これまで頑張ってきた過程を振り返り、自分を労うことも必要だと感じています。
自分を褒めることで得られる最大のメリットは自分に自信がつくことです。
入学してからこれまでの自分を思い出してください。ひとりひとりに必ず成長があるはずですよ。
看護学生として成長したという自信を持って、国家試験に臨めれば良いと思っています。

よし、あと一息！国家試験に向けて共に頑張ろう～！



父母の会より

7月15日(水)

2020年度第1回の役員会を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各種行事の中止や規模縮小を行わざるを得ない状況です。

今後の感染状況に配慮しながら父母の会としての活動も検討していきたいと思えます。

引き続き皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

～第1回役員会報告～

- ・学生支援として1.2年生へコピーカード
3年生へはコピーカードとマスクの寄贈
- ・42期生へ戴帽式記念にナースウォッチ贈呈
- ・成人祝いの記念品は図書カード
- ・コロナ禍ではあるが、3年生国家試験学習の応援として豚汁等を提供したい(日程未定)
- ・今年度、原水爆禁止世界大会はオンラインにて参加、わくわくゼミ活動は中止となりました。

日程未定 3年生国家試験学習励ます豚汁
3月5日(金)卒業式 第2回役員会

同窓会より

■7月11日(土)同窓会役員会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症について、終息の先行きが不透明であることから、2021年度に予定していた「同窓会総会」を2022年度へ延期することを決定しました。

学校より

■年度末までの予定

11月 学校説明会(オンライン)7日.21日

12月 学校説明会(オンライン)8日.11日

40期生卒業研究発表会 7日.8日

冬期休業 18日～

1月 前期一般入試 7日

始業 8日

2年生終講試験

2月 後期一般試験 12日

1年生期末試験

第110回看護師国家試験 14日

3月 卒業式 5日

終業 12日

春期休暇 15日～

第110回看護師国家試験合格発表 26日

40期生卒業研究発表会 12/7.8

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、Web(オンライン)にて開催いたします。
詳細につきましては、後日お知らせいたします。



編集後記

今年も残すところ1か月余りとなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、今まで経験したことのないような「我慢」の生活を強いられた1年となりました。

新たな生活様式が打ち出され、学校生活においても授業方法・行事・実習等、昨年までとは大きく変化しました。その中でも、オンライン授業への対応・戴帽式への取り組みなど、あらゆる面で学生たちの対応能力の高さに驚いています。

このような状況がいつまで続くか、まだまだ見通しはつきませんが「明けない夜はない」と信じ、新たな可能性を模索しながら、学生の「学ぶ権利」を保障できるよう努めて参ります。